

『エアゾールスプレー』の使用にご注意ください！〈その1〉

こんな事故が起きています

- ・ 浴室内で虫を退治しようとして連続噴射後、入浴のために内釜に点火したところ引火して火災となり、やけどを負い入院。
- ・ 使用中のコンロ近辺に出現した虫を退治しようと噴射したところ引火して火傷を負った。



これが原因

スプレーには噴射圧力をかけるために可燃ガス(LPガス)が用いられているため、噴射により滞留した可燃ガスに、ガス器具の火が引火した。

ここに注意

- ① 炎や火気の近く、高温となる場所ではスプレーを使用しない。(表示をよく読む)
- ② 使用中並びに使用後は十分に換気を行う。

『エアゾールスプレー』の使用にご注意ください！〈その2〉

こんな事故が起っています

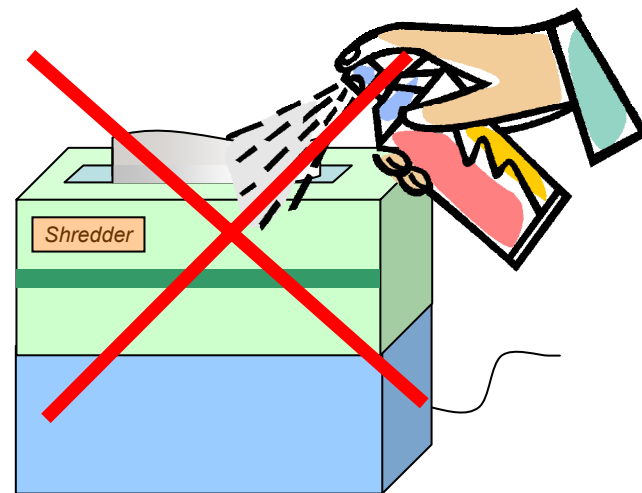
シュレッダーで紙詰まりが発生したので、潤滑油をカッター部に供給して回転をスムーズにしようとして潤滑スプレーを噴射したところシュレッダーが爆発した。

これが原因

シュレッダーの屑箱の空間はガスが溜まりやすい場所であるところ、スプレーから潤滑油と共に噴射された可燃性ガスがシュレッダーの内部に残留して、シュレッダーのモーターで発生した火花により引火や爆発を起こす。

ここに注意

- ・ 潤滑スプレーその他各種スプレーの類をシュレッダーの内部へ向けて噴射してはいけません。



『エアゾールスプレー』の廃棄の際ご注意ください！

こんな事故が起こっています

浴室の床で市販のガス抜き器を使用してエアゾール缶（LPガスが使用されている）に内容物が残った状態で、穴を開けていたところ、LPガスに何らかの原因で火がつき火傷を負った。

これが原因

スプレー缶に内容物が残った状態で、缶に穴を開けてガス抜きをすると、スプレーに用いられている可燃ガス(LPガス)が周囲の火種や金属同士が衝撃的に擦れ合っただけで生じた火花により引火・爆発することがあります。



ここに注意

- ①スプレー缶は中身を使い切ってから捨てましょう。（「中身排出機構」が缶に付いている場合には、それを用いましょう。）
- ②缶に釘やガス抜き器などを用いて孔を開けてはいけません。
- ③中身を使い切る操作は、風通しが良い火気のない屋外などの場所で行い、噴射音が聞こえなくなるまで繰り返し噴霧用ボタンを押して完全に中身を排出しましょう。

暖房器具の前でのスプレー缶の放置にご注意ください！

こんな事故が起こっています

- ・石油ファンヒーターを使用していたところ、床に置いていたスプレー缶が突然破裂し、飛散した缶の破片で天井に穴が空いた。



これが原因

- ・スプレー缶を石油ファンヒーターの前面近くの床面に放置したため、石油ファンヒーターからの熱風によりスプレー缶が過熱し、缶の内圧が異常に上昇して破裂に至った。

ここに注意

- ・スプレー缶をストーブ、ファンヒーター等の暖房器具の前に放置してはいけません。